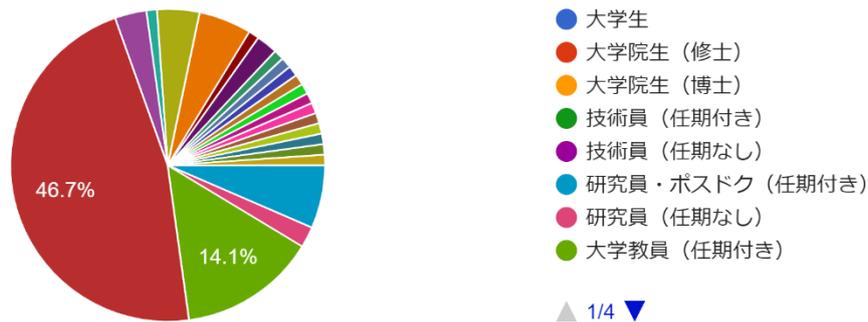


## 第 20 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムアンケート結果

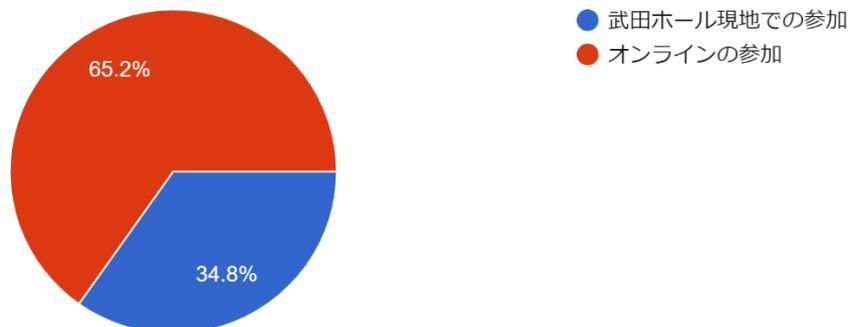
### 1. 参加者の身分

武田ホールでの参加者約 70 名、オンライン参加者約 180 名のうち 92 名から本アンケートのご回答をいただきました。参加者の身分は大学教員（任意なし）が最も多く 43 名（46.7%）であった。ついで大学教員（任期付き）13 名（14.1%）、研究員・ポスドク（任期付き）6 名（6.5%）、非雇用定年退職後 5 名（5.4%）、国公立研究所研究職 4 名（4.3%）そのほかは 3 名以下であった。



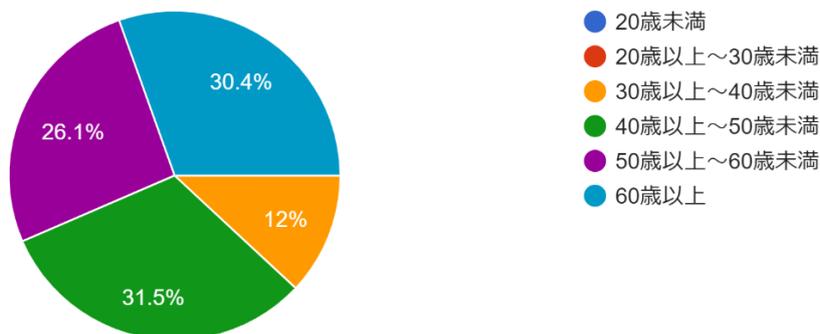
### 2. 参加形態

武田ホールでの参加者 28%、オンライン参加者 72%と比べて、アンケートにご回答いただいた方の割合は、武田ホール 34.8%、オンライン 65.2%と、現地参加者のアンケート回答率がやや高かった。



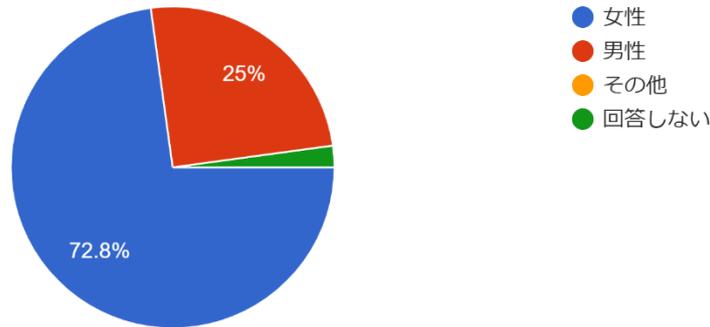
### 3. 参加者の年齢

40 歳以上 50 歳未満（31.5%）、60 歳以上（30.4%）がほぼ同じ割合で次いで 50 歳以上 60 歳未満（26.1%）、残りが 30 歳以上 40 歳未満（12.0%）であった。



#### 4. 参加者の性別

女性が 67 名 (72.8%)、男性が 23 名 (25.0%)、回答しないが 2 名 (2.2%) であった。



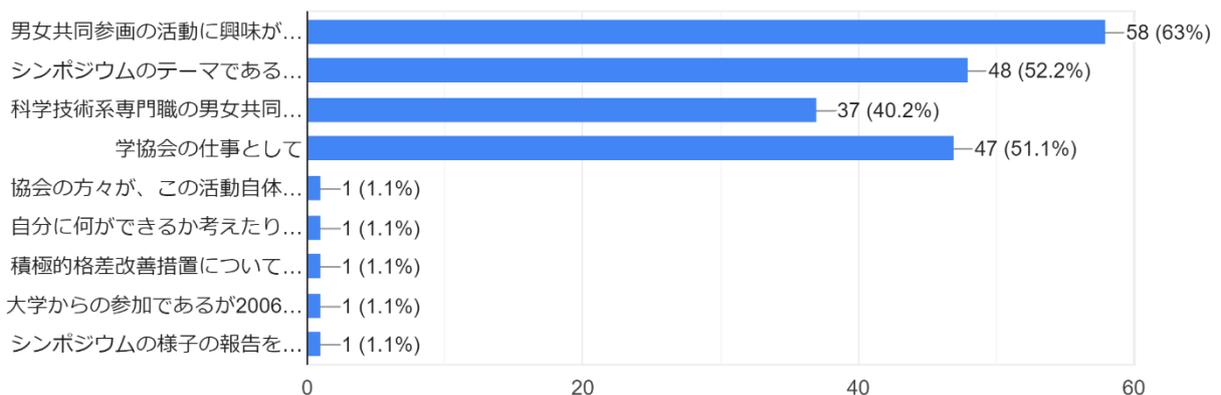
#### 5. 本シンポジウムを知った主たるきっかけ

「男女共同参画学協会連絡会からのメール」35 名 (38.0%) と「所属学協会からのメールなどによる案内」34 名 (37.0%) がほぼ同数であった。ついで「毎年参加しているの」が 10 名 (10.9%)、友人知人からの紹介 6 名 (6.5%)、「所属機関からのメールなどによる案内」が 3 名 (3.3%)、その他のきっかけはそれぞれ 1 名であった。



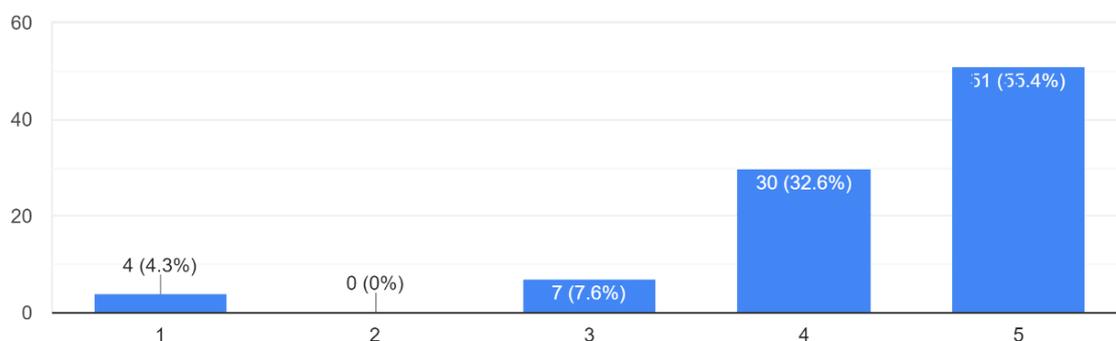
#### 6. 本シンポジウムに参加した理由 (重複回答)

「シンポジウムに参加した理由としては、男女共同参画に興味があるから」が最も多く 58 名 (63.0%)、「シンポジウムのテーマである男女間の積極的格差改善措置に興味があったから」48 名 (52.2%) と「学協会の仕事として」47 名 (51.1%) がほぼ同数、次いで「科学技術系専門職の男女共同参画実態調査 (大規模アンケート調査) 結果に興味があったから」47 名 (51.1%) であった。他の理由はそれぞれ 1 名ずつであった。



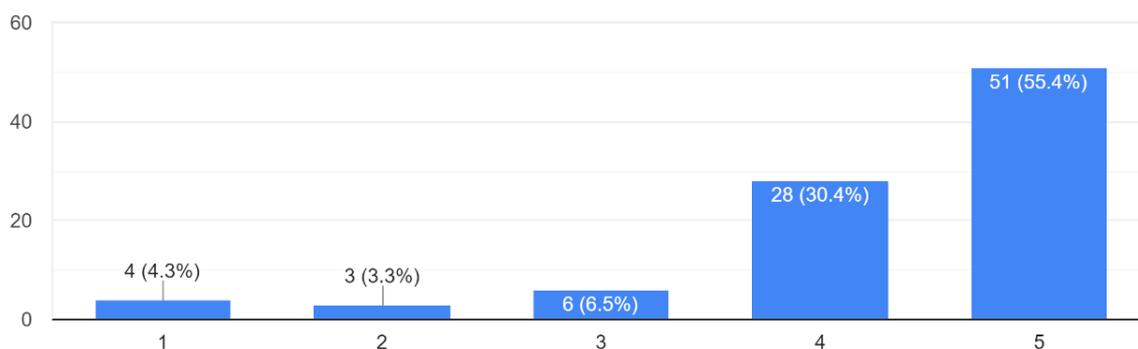
## 7. 本シンポジウムの評価

5段階評価は5が51名(55.4%)と最も多く、次いで4が30名(32.6%)、3が7名(7.6%)、1が4名(4.3%)であった。



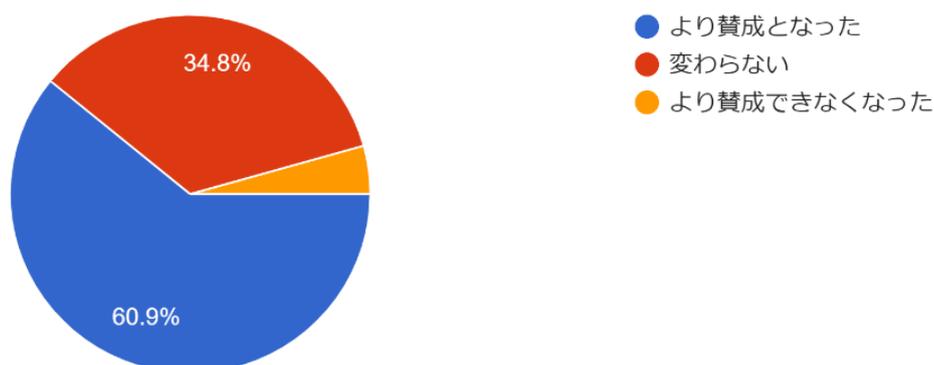
## 8. 積極的格差改善措置についての賛否

積極的格差改善措置に対する賛成度合いを5段階で回答してもらった。賛成度が最も高い5が最も多く51名(55.4%)であった。ついで4が28名(30.4%)、3が6名(6.5%)、2が3名(3.3%)、1が4名(4.3%)であった。



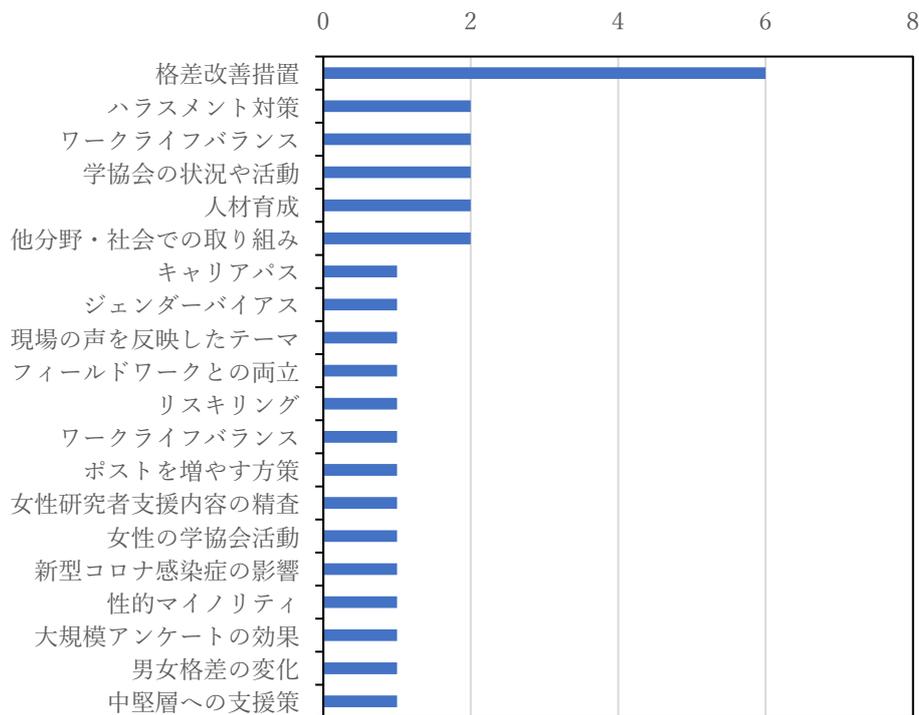
## 9. シンポジウムに参加による積極的格差改善措置についての考えの変化について

「シンポジウムに参加したことで積極的格差改善措置についての考えは変わりましたか」という質問に対する考えの変化について質問したところ、「より賛成となった」が56名(60.9%)と最も多く、ついで「変わらない」が32名(34.8%)、「より賛成できなくなった」と回答した方が4名(4.3%)であった。



## 10. 来年以降のシンポジウムで取り上げてほしいテーマ等がありましたらお書きください

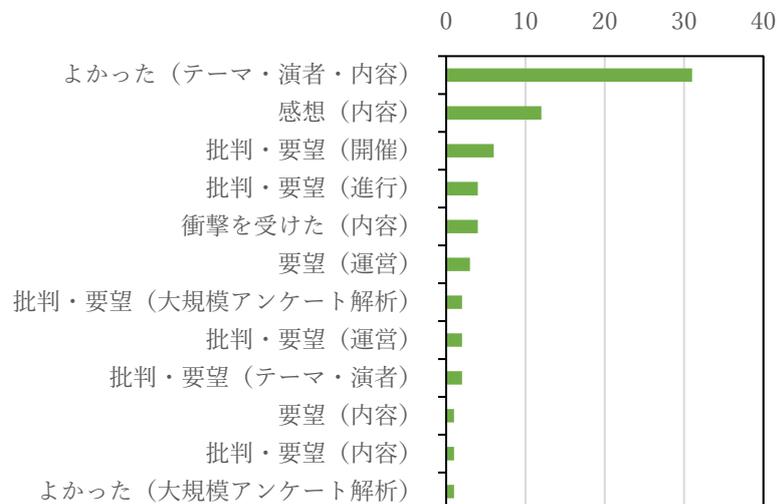
今後取り上げてほしいテーマは？



テーマに関して 29 件の回答を得た。もっとも回答が多かったのは「格差改善措置」(6 件)であり、「格差改善措置の効果、実績への影響」を希望する内容が 3 件、「今後も継続して取りあげてほしい」が 2 件あった。次に要望が多かったのは「ハラスメント対策」「ワークライフバランス」「学協会の状況や活動」「人材育成」「他分野・社会での取り組み」に関してで、それぞれ 2 件ずつであった。

## 11. 本シンポジウムのご感想やご意見をお聞かせください。

本シンポジウムの感想、コメント



本シンポジウムの感想・意見は 69 件であった。まず、「有意義だった」「興味深かった」「参考になった」などの感想は「よかった」としてまとめた(31 件)。特に、積極的格差改善措置をテーマとした基調講演が好評で、「クオータ制について勉強になった」「異業種の方の講演がとても参考になった」などの感想が多かった。続いて、「職の安定性について改めて考えさせられた」「マスコミ等もうまく利用しながら、データを見せるだけではなく感情を動かすことで、教育・研究推進・将来にわたる豊かな社会形成の重要性を広く社会に伝えていく必要があると感じた」など、シンポジウムの内容を受けての感想が多かった(12 件)。三番めに多かったのはシンポジウムの開催方法に対する批判・要望で、「オンラインでの音声や資料の画面共有の状況がひどかった」「ハイブリッドではなく、完全オンラインとしたほうがイベントとしてはスムーズなのではないか」「オンライン開催は賛成だが、将来的に「字幕をつける」方向で検討してほしい」などのオンライン配信への意見がほとんどであった(6 件)。次に多かったのが、シンポジウム進行に対する批判・要望と、シンポジウム内容について「衝撃を受けた」という感想で、それぞれ 4 件ずつあった。シンポジウムの進行については「事前に配信方法を確認することで、トラブルを防げたのではないか」「ポスターセッションの時間が減ってしまい残念だった」「時間配分が不満、もっと議論を聞きたかった」など、シンポジウム冒頭に合った配信トラブルやその後の時間配分に対する苦言が多く、今後に反映すべき懸案だと言える。講演を受けて「衝撃を受けた」というコメントには「任期付き研究者の給与だけが下がっている事実には衝撃を受けた」「積極的格差改善措置が全く機能していないことに驚きを覚えた」などがあつた。運営への要望(3 件)は、アンケートの解析データやシンポジウムで使用したスライドの共有を希望するコメントで、こちらについては対応が完了している。2 件以下のコメントについては割愛する。